

総務環境常任委員会会議記録

日 時 令和3年8月10日(火曜日)
場 所 水戸市議会 第1・第2委員会室

午前 9時59分 開議
午前10時17分 散会

付託事件

(1) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 報告事項

- ① 令和2年国勢調査結果(速報値)及び今後の公表スケジュールについて (情報政策課)
② 茨城ロボットのB1リーグ昇格に伴う2021-2022シーズンについて (スポーツ課)

2 出席委員(6名)

委員長	高 倉 富 士 男 君	副委員長	佐 藤 昭 雄 君
委員	田 中 真 己 君	委員	大 津 亮 一 君
委員	栗 原 文 隆 君	委員	福 島 辰 三 君

3 欠席委員(なし)

4 委員外議員出席者(なし)

5 説明のため出席した者の職, 氏名

市長公室長	小 田 木 健 治 君	秘書課長	篠 原 芳 之 君
政策企画課長	宮 川 孝 光 君	情報政策課長	北 條 佳 孝 君
みとの魅力 発信課長	出 沼 大 君		
総務部長	園 部 孝 雄 君	総務法制課長	上 垣 外 泰 之 君
行政経営課長	熊 田 泰 瑞 君	人事課長	安 里 裕 行 君
財産活用課長	谷 津 茂 男 君	市民課長	渡 邊 徳 子 君
財務部長	白 田 敏 範 君	税務事務所長	川 津 英 臣 君
財務部参事兼 財政課長	梅 澤 正 樹 君	税務事務所 参事兼 市民税課長	佐々木 信 也 君
資産税課長	浅 野 一 志 君	収税課長	高 安 正 紀 君
市民協働部長	川 上 幸 一 君	市民協働部 副部長	小 嶋 いつみ 君
市民協働部 技 監	太 田 達 彦 君	市民協働部 参事兼 市民生活課長	白 石 嘉 亮 君

市民協働部 参事兼 スポーツ課長	柏	直	樹	君	市民協働部 技監兼 体育施設整備 課長	青	山	和	夫	君		
防災・危機 管理課長	小	林	良	導	君	生活安全課長	村	沢	晶	弘	君	
文化交流課長	沼	田		誠	君	新市民会館 整備課長	須	藤	文	彦	君	
男女平等 参画課長	石	塚	美	也	君							
生活環境部長	佐	藤	則	行	君	環境保全課長	柴	崎	美	博	君	
衛生事業課長	黒	澤	純	一	郎	君	ごみ減量課長	栗	原	千	尋	君
廃棄物対策 課長	亀	井	俊	道	君	清掃事務所長	武	田	和	馬	君	
選挙管理委員会 事務局長	外	岡	淳	一	君							
監査委員 事務局長	和	田		隆	君	監査委員 事務局次長	永	井	誠	一	君	
議会事務局長	小	嶋	正	徳	君	議会事務局 次長兼 総務課長	天	野	純	一	君	

6 事務局職員出席者

議事課長	大	嶋		実	君	書記	武	田	侑	未	子	君
------	---	---	--	---	---	----	---	---	---	---	---	---

午前 9時59分 開議

○高倉委員長 おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから総務環境委員会を開会いたします。

議事に先立ちまして、川上交通政策課長、鈴木契約検査課長が体調不良のため、小田木会計管理者兼会計課長が忌引のため欠席との連絡がありましたので、御報告いたします。

それでは、これより議事に入ります。

報告事項の説明を行います。

初めに、(1)の令和2年国勢調査結果（速報値）及び今後の公表スケジュールについて、執行部から説明を願います。

北條情報政策課長。

○北條情報政策課長 おはようございます。

それでは、令和2年国勢調査結果（速報値）及び今後の公表スケジュールにつきまして、市長公室情報政策課の資料に基づき御説明いたします。

国勢調査は、国の最も基本的な調査と位置づけられたものであり、5年に一度実施されるものでございます。昨年、令和2年度調査につきましては、10月1日を調査期日として実施され、市民の皆様方の御協力を得まして、無事、調査を終了したところでございます。委員の皆様をはじめ、市民の皆様にご協力いただきましたことに改めて感謝を申し上げますところでございます。

調査の結果としましては、速報値として、先日、総務省統計局から人口及び世帯数が公表され、委員の皆様には、取り急ぎ書面にて御報告させていただいたところではありますが、改めまして御報告をさせていただきます。

資料の項番2、令和2年国勢調査における水戸市の人口等（速報値）を御覧ください。

速報値としまして、水戸市の人口は27万810人、世帯数は12万2,218世帯でありまして、前回、平成27年の調査と比較しまして、人口はほぼ同数、世帯数は3.9%の増となっております。

参考としまして、茨城県の状況を記載しておりますが、県では、平成22年の調査から人口減少が続いておりまして、今回、令和2年の速報値では人口が286万8,554人で、前回と比較しまして1.7%の減、一方、世帯数は118万1,273世帯で、前回との比較で5.1%の増となっております、人口減と世帯増の状況が見られるところとなっております。

続きまして、3の今後の公表スケジュールであります、総務省統計局での精査の済んだ確定値の公表が今年11月を予定しております。その後、転出の状況や労働力の状況、産業部門別の就業者数等の数値について順次、公表されていくスケジュールとなっております。

特に確定値につきましては、国からの公表があり次第、速やかに委員の皆様にお知らせしてまいりますので、よろしく願いいたします。

報告は以上でございます。

○高倉委員長 それでは、内容について御質問等がございましたら、発言を願います。

田中委員。

○田中委員 多くの関係者が関わった結果で、お疲れさまでしたというところなんですけど、実施の前に、コロナ禍で調査にいろいろ注意をして行くと、訪問調査も対面を避けるとか、いろいろおっしゃっていたと思うんですが、その結果といたしますか、その影響というのは、回答状況には何か表れたのか。

○高倉委員長 北條情報政策課長。

○北條情報政策課長 お答えをいたします。

今回のコロナの対策といたしましては、できるだけ対面での調査をしないということで指導員のほうに徹底をしております。国のほうといたしましては、特にインターネットの回答を50%にするという目標を掲げて対応をしてきたところがございます。結果といたしましては、水戸市のインターネットの回答状況は43.6%ございました。こちらは国の最終的な数値である37.9%よりは多くはなっておりますが、国の目標値には達しておりませんでした。ただし、併用しまして今回は郵送の回答もやっております、40.2%の郵送の回答がございまして、合計83%の方が非接触の形で回答をいただいたという状況になっております。

○高倉委員長 田中委員。

○田中委員 それとですね、この2の結果の見方なんですけれども、私は、水戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の有識者会議に先日出たんですが、そのとき、既に市が目標としている人口推移で見ると、2020年度までは微増なんですけれども、その後は下がっていく予測を出しております。そのことを聞きたいじゃなくて、県も同じようなんですけれども、世帯数は増えるけれども、人口の増減率がほぼゼロ%というのは、これは何か、どう考えたらいいのか。平成22年から平成27年は世帯数が約5,500世帯増えて、人口が約2,000人増えていますけれども、今回は約4,600世帯は増えたけれども、27人の増というのは、世帯の構成人数が減っているとか、単身世帯が増えたとか、あるいはそうじゃないのか。何か理由が分かっていたら教えていただきたいと思います。

○高倉委員長 北條情報政策課長。

○北條情報政策課長 田中委員の御質問にお答えいたします。

今回の速報値では、世帯数は出ておりますが、世帯の詳細な状況というのがまだ公表はされておきませんので、この世帯の状況がどうであるかということについては、現状では分析ができていない状況です。ただ、平成22年と平成27年の世帯数の状況などを比較しますと、高齢者の世帯が増えていたりとか、そういう状況がございまして、あわせてそういったものの推移等の把握に努めてまいりたいと思います。

○高倉委員長 そのほかに。

福島委員。

○福島委員 国勢調査ですか、これは国勢センサスだと思うんですが。この場合、今まで水戸市が少子化対策とか人口増に対するの対応策、例えば定住人口を増やそうとか、それから、工業団地を造って工場を誘致して人口増を図ろうとか、また、地域的に子どもたちや何かの人口増を図る。また、ほかから水戸市へ住みたいと。何かそういうこの人口対策は、水戸市は何もやらなかったんですか。やったが駄目だったのか。国勢センサスが発表になったけれども、水戸市はこういうことをやったからこれだけ増えたんだとか、これに対して、水戸市は今後どのように対応していく、これが一番統計調査の基本だと思うんだよね。そういう面

では、今まで水戸市の人口増を図ろうとしてやってきたんだとか、それから、定住人口のために少子化対策とか、いろいろやってきたと思うんだけど、そういうことは一切やらなかったけれども、やったが駄目だったのか。その辺はどうなっているか。

○高倉委員長 宮川政策企画課長。

○宮川政策企画課長 ただいまの福島委員の御質問にお答えいたします。

統計調査につきましては、これらの統計調査を今後の施策に生かす、あるいは今までの政策を検証する、そういった視点が、委員御指摘のとおり非常に大事なものでございます。

これまで、先ほど田中委員からもありましたように、まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で4つの大きな柱を掲げまして、施策を展開してございます。その中では、仕事をつくる、あるいは人の流れをつくる、そして、御指摘のように子育てに関する施策、そして水戸市全体の魅力の向上、そういった施策を進めてまいりました。まち・ひと・しごと創生総合戦略の中では、昨年度の2020年度において27万人まで減少するという見込みを立ててございました。こちらの国勢調査の結果は27万810人ということで、その数字を上回っているところでございます。

今後、国勢調査の確定値の内容について詳しく精査しまして、その内容を次の施策に反映させ、さらなる人口の抑制の緩和を進めてまいりたいと考えてございます。

○高倉委員長 福島委員。

○福島委員 いろいろ水戸市はね、政策大綱をやって、それなりの人口増を図ろうと。また、転出者を少なくして転入者を増やそうという、まち・ひと・しごと創生総合戦略と今言われたけれども、一切、やったことは言えるが、反省の言葉はないんだよね、ほとんど。やりました、やりました、やりましたって。それは分かるよ、予算を使っているんだから。けれども、人間っていうのはね、反省するところに進歩があるんだよ。だから、将来を見越した施策とか、将来の水戸市の人口増による水戸市の形態というのは、産業構造上も、また年齢の構造も、子どもたちが増える、働き手が増える、また、高齢化社会になっていく。そういう中でどのように分析し、どのように行政が対応していくかということが一番大事だと思うんです。だから、これは国がやっている国勢センサスだから、これは非常に一番基本になると思うんですよ。だから、この動向によっては、将来の茨城県、水戸市、それから日本中がどのように人口の変動があるのか。そしてまた、その中に働き手がない高齢化社会になってしまうのか。それから、子育てに対する子どもたちに夢と希望を与える施策がどういうものであるか。そういうものをつくることによって、よりよいビジョンというもので、水戸市が発展していくと思うんです。

だから、これを基本にね、今後そういうことを精査して、やはり反省するところは反省する。いや、さっき自慢していたから、人口が増えたんだと。本当にそれが長続きするのかと。それはたまたまね、そういうあれだけで、そんなに増えたわけじゃないんだから、ただ、その対応と将来に対する前進のための施策というものをね、あとまだ、今、まちづくり、人づくり、もの、人、やっているから大丈夫だということを言われたけれども、俺らはたまたまで、それをやったからこんなに人口が増えたんだとは私はね、皆さん、頭がいいから、俺は頭が悪いから分からないけれども、それがびったり当たっているということではない、もう少し分析を多くしてもらいたい。

いいです。

○高倉委員長 ほかにございませんか。

ないようですので、この件について終わります。

次に、(2)の茨城ロボッツのB1リーグ昇格に伴う2021-2022シーズンについて、執行部から説明を願います。

柏参事兼スポーツ課長。

○柏市民協働部参事兼スポーツ課長 茨城ロボッツのB1リーグ、2021-2022シーズンにつきまして、スポーツ課提出の資料により御説明いたします。

茨城ロボッツにおきましては、昨シーズンのB2リーグ戦において東地区2位となり、念願のB1昇格を果たしました。B1昇格をして初めてとなるこのシーズンの試合日程が、主催者でありますBリーグから先日発表されました。茨城ロボッツは、本市の地域資源として、地域住民が身近にトップレベルのスポーツに触れることができる存在でありますことから、本市ではプロスポーツを通じた地域活性化、まちのにぎわい創出への取組を推進してまいります。

2のB1リーグ2021-2022シーズンの試合日程について、説明をいたします。

(1)期間につきましては、9月30日から来年5月8日まで開催されます。

(2)のチーム数につきましては、B1全体は22チームで、東地区、西地区の2つの地区にそれぞれ11チームに分けて行われます。茨城ロボッツは、表の左側のレバンガ北海道などの東地区に所属をいたします。

(3)の試合数につきましては、年間60試合となります。茨城ロボッツは、所属する東地区の10チームと4回戦総当たりをするほか、表の右側の西地区の10チームと2回戦総当たりを行います。

なお、今シーズンは、各地区11チームずつの変則的な編成のため、茨城ロボッツは西地区最下段の琉球ゴールデンキングスとは対戦いたしません。

(4)昇格、降格につきましては、今シーズンはB1、B2の間、B2、B3間ともに上位2クラブの自動昇格となりまして、入替え戦は実施されません。

(5)茨城ロボッツの試合日程につきましては、別紙スケジュールとなっております。今後、試合開始時間等の詳細が決定されることとなります。

説明は以上でございます。

○高倉委員長 それでは、内容について御質問等がございましたら、発言を願います。

田中委員。

○田中委員 すみません、基本的なことが分かっていないんですが、この2枚目の表は36試合18回が、アダストリアみとアリーナだけではないんですよね、かみす防災アリーナもあるのか、ということよろしいんですかね。ということと、その60試合とこの後ろの表の関係はどういうふうに理解すればよろしいか御説明をいただけますか。

○高倉委員長 柏参事兼スポーツ課長。

○柏市民協働部参事兼スポーツ課長 ただいまのスケジュール、日程についての御質問にお答えいたします。

この別表のところの左上，01から右下のところ，36となつてございます。この中で1日だけの試合のとき，それから2日間試合のときもありまして，全部で36節ございまして，その試合総数としては60試合になるということになります。

○高倉委員長 ほかにございませんか。大丈夫ですか。

ないようですので，この件について終わります。

以上で報告事項を終わります。

それでは，以上をもちまして，本日の総務環境委員会を終了いたします。

御苦労さまでした。

午前10時17分 散会